



2024-25年度 国際ロータリーのテーマ

# HIROSHIMA KUKO Rotary Club Weekly-Report

会長 小島 勘次 副会長 岡田 雄幸 幹事 兼田 昌紀 SAA 松下 知美

広島空港ロータリークラブ  
2024-25 2025年2月5日発行

事務局 三原市本郷南6丁目3-26 三原臨空商工会2F  
TEL 0848-86-0986 FAX 0848-86-0992  
E-mail h.kukorc@vega.ocn.ne.jp  
例会場 広島エアポートホテル(TEL 0848-60-8111)

2710地区 上田文雄ガバナー 信条  
行動しよう、未来のために。=変革に取り組もう=

本日のプログラム(2月5日)

佐々木 正親会員  
「広島県動物愛護センター見学」

次回のプログラム(2月19日)

谷本 佳弘会員

## 第1325回 2025年1月22日 例会記録

点 鐘 小島会長

ロータリーソング「奉仕の理想」

### 出席報告

	会員数 シニア会員	出席者	メイク	欠席 (免除)	出席率
本日 (1/22)	30 2	20	2	5 3	81.48
メイク	佐々木直子・住田				

### 食事時間



熟成鶏むね肉の彩りサラダ  
レモンドレッシング  
ポテトクリームスープ  
サーモンのムニエル  
ポルチーニトマトソース 春菊のソテーと共に  
バケット  
コーヒー

### 会長ひと言



皆さま、本日はお忙しい中、例会にご参加いただきありがとうございます。

寒い日が続いておりますが、暦の上ではもうすぐ立春を迎えます。

少しずつ日が長くなり、春の訪れを感じられるこの時期は、私たちの心にも希望をもたらしてくれます。季節の変わり目は、新しい気持ちで前を向く良い機会でもあります。

さて、先日、アメリカで第45代大統領としてドナルド・トランプ氏が正式に就任されました。彼のリーダーシップがこれから世界や日本にどのような影響を及ぼすのか、多くの人々が注目しています。このような大きな変化が起きる中で、私たちロータリアンには、地域と世界をつなぐ架け橋としての役割が一層求められていると感じます。

ロータリーの精神である「奉仕」と「友愛」は、時代がどのように変わっても、私たちの行動の指針であり続けます。一人ひとりが、日々の生活や

活動の中でその価値を実践することで、小さな力もやがて大きな波となり、社会に貢献する力になると信じています。

春の訪れが近づいている今、私たちも新しい目標を掲げ、気持ちを新たに行動を起こしていきましょう。本日の例会を通じて、皆さまが互いに学び合い、次の一步へのヒントを見つけていただければ幸いです。

最後に、まだ寒い日が続きますので、どうぞご自愛ください。そして、これからも共に素晴らしい活動を続けてまいりましょう。本日もよろしくお願ひいたします。

## 幹事報告



- ・2月の例会出欠表へご記入をお願いします。
- ・5/10-11 RYLA研究会広島会議の出欠表の記入をお願いします。

### 【本日の回覧】

- ・2024-25 米山学友会賛助会員入会のお願い
- ・ロータリーの友1月号
- ・4/5 IM参加登録者一覧

## 卓話時間

### 今村均将軍と大東亜戦争



楠部 滋会員

私が最近読んだ本の中で感銘を受けた1冊に岩井秀一郎著、今村均という本があります。戦後80年ですっかり平和に慣れた私達ですが、最近、東アジアの情勢は不安材料が多くなっています。本日は今村将軍の生涯を通して、かつての世界大

戦における日本の戦いを振り返るとともに、良いリーダーの姿について考えてみたいと思います。

今村将軍が司令官として指揮された戦いは主に3つです。第1は、日中戦争の時にベトナムの国境に近い中国南部の南寧という所で、数の上では25~30倍の蒋介石の中国軍と戦った戦いです。広島第5師団の師団長としてみごとな指揮を示されました。第2は太平洋戦争初頭のオランダ領インドネシア攻略戦です。第16軍司令官としてオランダ軍を降伏させ、温情主義的な軍政によって成功を収められました。この事は戦後の日本とインドネシアの友好関係に寄与したと考えられます。

第3は、ラバウルでの活躍です。第8方面軍司令官として日本が劣勢になり始めた昭和17年11月から終戦まで数々の重要な働きをされました。当時補給が困難となり餓死する将兵が続出していたガダルカナル島からの撤退を成功に導かれました。又、10万人の将兵とともにラバウルを無敵の要塞に作り上げ、農業による自給自足の生活を確立して終戦まで将兵を守りぬかれました。

終戦後に戦犯としてオーストラリアとオランダの軍事裁判を受けましたが死刑になることなく10年間の有期刑に服役されました。刑期中に一旦日本に帰られたものの、GHQに要望して部下の収容されているマヌス島の収容所に渡り、最後まで指揮官としての勤めを立派に果たされました。

今村将軍の指導方法は任せっきりのロボット型でも独裁専断的なワンマン型でもない民主的と言えるものだったそうです。今村将軍が将兵に示された仁徳は、若い頃から自分の欠点を認識して生涯の反省と修養を続けられた中で育まれたものであったとのことです。

鈴木永二氏の言葉によれば、「不況逆境の時のリーダーは卓越した先見性・洞察力はもちろんであるが、最も大切なのは人間性、徳である」とのことです。



## 太平洋戦争終盤の主なできごと

- 昭和20年2月 ヤルタ会談
- 昭和20年3月 硫黄島の日本軍玉砕  
(3月～7月 日本の各都市にB29による無差別爆撃続く)
- 昭和20年4月1日 米軍、沖縄に上陸
- 昭和20年5月 ドイツ無条件降伏
- 昭和20年7月 ポツダム宣言
- 昭和20年8月6日 広島に原爆
- 昭和20年8月9日 早朝ソ連が満州に進攻 昼前長崎に原爆
- 昭和20年8月15日 日本無条件降伏 (国体護持)  
(ソ連は9月2日まで南サハリン、千島に進攻)
- 昭和20年9月2日 米戦艦ミズーリ号で降伏文書に調印

## 今村大将の戦い その3 ラバウルでの指揮 (3)

### (内容3)

- 洞窟陣地の構築 (10万人が3年間掘った)  
総延長 450 km  
15か所の病院 (5,500人収容可能)  
司令部は1,000人収容
- 武器弾薬も製造 (火薬4トンなど)
- 士気を高め統率を守るため頻りに戦闘訓練を実施
- 戦後の日本復興を考えて、昭和20年6月には中尉、少尉を集めて技術教育を実施

## 今村 均 将軍の戦い その1 南寧作戦

- 昭和12年12月～昭和13年2月
- (目的)  
日中戦争中に蒋介石を援助する米英の支援ルートを遮断する
- (内容)  
広島の第5師団の師団長として、25～30倍の蒋介石軍と戦い苦戦したが50日間持ちこたえ援軍を迎えて勝利  
第5師団の戦死者1,500人を出したが、司令官としての冷静さと現場指揮の力量が高い評価

## 終戦後の今村大将の姿

- 昭和20年8月16日 (終戦の翌日)  
直轄部隊長60名を集め、終戦詔書を読み上げ「軍隊組織の維持」を訓示、自ら畑を耕して手本を見せた
- 昭和20年9月 オーストラリア軍による武装解除
- 昭和20年10月 オーストラリアによる裁判で10年の有期刑
- 昭和23年3月 インドネシアでのオランダ裁判では検事が死刑を求め
- 昭和23年12月 無罰の判決 オーストラリア判決の10年の刑期を守るため日本の巣鴨プリズンに移ったが、GHQのマッカーサーに陳情して部下たちが収監されていたマヌ島の収容所に渡った
- 昭和25年 部下と一緒に日本に帰り、自分は巣鴨プリズンに入る  
昭和29年に刑期終了。その後は自宅敷地の3畳1間の「謹慎小屋」で余生を過ごした

## 今村 均 将軍の戦い その2 インドネシア進攻と軍政

- (目的) 太平洋戦争の開始直後、オランダ領インドネシアを占領して石油などの資源を押さえ、オランダ軍を降伏させる
- (内容) 第16軍の司令官としてジャワ島を攻略し、インドネシアに緩和的な軍政を実施した
- (今村軍政の特徴)
  - ★現地を重視すること
  - ★オランダ語をやめてインドネシア語に
  - ★各地に村落学校を作った
  - ★オランダ人にも寛大な政策を実施
  - ★スカルノ、ハッタら独立運動家の信頼を得る  
(これが戦後の日本インドネシア関係に貢献)

## 今村大将の指導方法

- 任せっきりのロボット型でも独裁専断的なワマン型でもない民主的とも言えるもの
- 自分の意見を部下に周知し、合意形成を図ってから、方針として決定するという方法
- **決断は早くても修正しづらい独裁とも、ときにはリーダーシップ不足で危機に対応できない部下任せの形式とも異なる**

(イギリスで学んだ「デモクラシー」を正確に理解し、共感を示したことが背景か?)

## 今村大将の戦い その3 ラバウルでの指揮 (1)

- (目的)  
第8方面軍司令官としてラバウルの守備を固めるとともに、苦戦中のガダルカナル島やニューギニアの戦闘を統率
- (内容1)  
毎日100名の兵が餓死しているガダルカナル島の玉砕を防ぎ、1万人の将兵を徴収させた

(ガダルカナル島での戦死者6,000人、餓死、病死が1万5千人といわれる。このため早くからラバウルの孤立対策を考案していた)

## 今村大将の将兵に対する仁徳

- 若い頃から新約聖書と歎異抄を座右から離さなかった
- 小さなことで腹を立てる自分の欠点を認識し、生涯我が身を反省して修養を忘れなかった
- 戦時中も士官たちに「兵を大切にしたい。」と説き、「尊い命であるから無駄にしてはならない。」と述べていた
- **一見平凡に見えながら指導者として欠いてはならない修養を重ねた人**

## 今村大将の戦い その3 ラバウルでの指揮 (2)

### (内容2)

- ラバウルに居た陸軍7万人、海軍3万人の将兵を餓死させないようにジャングルを開拓して農業で収穫を得るように作戦
- 早くから、日本から種々の作物の種と農業技術者と農器具を導入し、養鶏、養豚を実施
- 海水から塩、ヤシの実から調味料

## 鈴木永二 (元経団連会長) の 今村大将についての言葉

不況、逆境の時の真のリーダーは卓越した先見性、洞察力は勿論であるが最も大切なのは人間性、徳である